

# 藤田祐幸さんの講演会を行いました

2会場  
約200人が聴講  
しました!



津久見の海と山といのちを守り母の会

共同代表 古谷久美子 吉良貴代  
事務局 070 5534 9364 (早田)

<http://tsukumi.org>

講師プロフィール 30年間 原発の危険性を訴え活動。慶應大学  
法学部助教授、現在は長崎県立大学ニホリ技  
非常勤講師。

## 【講演要旨】

- 今、日本は大変な状況。「日本に大きな地震が起り、それが原発事故につながり、関東は放射能汚染される」と30年間 訴え続けがとめられなかったため、65年間過ごした関東を離れ、5年前長崎に移住した。
- 重要なことを決める時に思うことはアメリカの先住民インディアンのものごと決め方。「今自分たちが決めようとしていることが7世代先の子ども達にとって良いことかどうか」
- 日本は地震の活動期に入っている。今回の事故は日本の歴史の中で最悪の出来事。今も放射能が環境に放出されている。幸いにして九州の汚染は免れたが全く汚染がないわけではない。
- 今あべきことはガシキの広域処理や原発再稼働ではない!! 原発に頼らない生活について考える。被災者、特に子ども達を汚染地域から避難させること。
- 放射能管理区域には青少年、妊産婦は居てはいけない。175万人が今もそこ生活。内30万人が子どもである。

- 放射能は濃度ではなく(総)量で考えねばならない。
- ◆ 100ベクレル/kgのガシキを5万t受け入れた場合  
50億ベクレルの放射能を受け入れることになる!

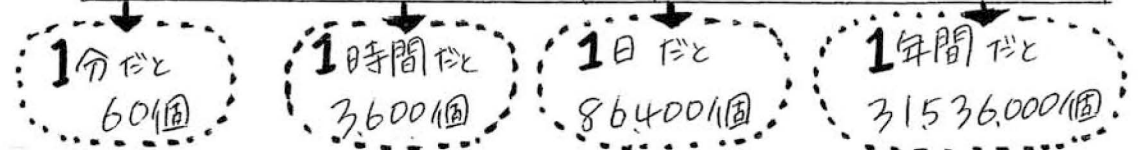
1ベクレル  
でも体に  
入ると内部  
被ばく心配

1kgに100ベクレル含まれているので

5万t = 50,000,000 kg × 100ベクレル

= 5,000,000,000 ベクレル → 50億ベクレル

1ベクレルとは 1秒間に1個の放射線が放出されることを意味する



- セシウムの沸点は668.5℃。セシウムは気化し、ガシキを通過し、環境に拡散される恐れがある。
- 何種類もある放射能の中でもセシウムが特に放射能が強い。セシウムの半減期は30年。300年経ってもゼロにはならない。  
→放射能の力が半分になるのに要する期間
- ガシキや汚染を引き受けずにはなく人を受け入れる。非汚染地域として九州を守り、福島の子供達をせめて夏休みに津久見の海で思い切りあそばせあげて!!

大分県による  
説明会に行きましょう!!

5/27(日) 19:00~21:00  
※ 受付時間 18:00~19:00

場所 津久見市民会館

1F 会議室

問い合わせ先 大分県生活環境部  
廃棄物対策課 097 506 3126

参加者の感想裏面に



希望の方は「海・山・いのち」事務局まで

◆基本的にガレキの受け入れは賛成でしたが話を伺って今の日本が少し見えてきました。震災ガレキ講演会のタイトルでは「反対集会」のイメージがあるので少し変えてみては？ [30代・男性]

◆ガレキは持ち出さないという言葉に心をうたれました。津久見市の太平洋セメントにガレキを持ち込んだらというお話が出ていますが汚染地域で処理してほしいと思いました。子ども達を安心して育てていくために震災ガレキを受け入れるべきではないと思います。被災地の方の受け入れは、しなければならないことだと思っています。これぞ絆だとも思います。子ども達の受け入れOKです。 [40代・女性]

◆とても難しい内容でした。友人に誘われて今日の講演会に来たので、震災のことも放射線のことも、どこか他人ごとを受け止めていました。しかし藤田さんのお話を聞いてその危険性、恐ろしさが少しわかった気がします。津久見でガレキを受け入れることに「被災地のためなら」と思っていたのですがそれにより自分たちの大切な人々、後世に大きな影響を与えてしまうと知ってしまった今、受け入れに反対派であろうと考えなおしました。 [20代・女性]

◆私は講演会を聞く前はどちらかと言えば、ガレキ受け入れに賛成の立場でした。マスコミ報道の中で震災地域を助けることが絆を深めることだと信じていた。(信じさせられていた)からです。しかし、今日の話の中で、そんな浪花節的なことでは済まされないことを聞き、強い衝撃を受けました。もっともっと広い視野をもって考えることの大切さとそれをしていなかった自分の甘さを痛感させられました。幸いにして放射能汚染を免れた九州そしてこの津久見を大切にそれを活かした復興支援ができるのではという新しい視点を与えていただいて、本当に良かったしその通りだと思いを強くしました。今日は講演を聴いて原発反対、ガレキ受け入れ反対の思いを強くしました。本当にありがとうございました。 [50代・女性]

◆原発はあってはならない。再稼働は絶対あってはならない。汚染を免れた大地を子孫に残すこと。被ばくの恐怖を分かち合うのではなく汚染地域の人たちを九州の地に。「放射能は減っていくが無くならない」たまげた、たまげた話がいっぱい無知ではられない!! [60代・女性]

◆脱原発を訴えてきたつもりでしたが今日の講演をお聞きし人任せ、行政任せにしてきた当事者であったと気づかされました。一人でも多くの人に原発の恐ろしさを伝えていき、原発に頼らない社会を実現させたいと強く思いました [40代・男性]

◆津久見の人々が考え、自力で判断して動かねばならない時がこのような形で現れるとは…。何らかの形で来るべき時が来たのだと思います。大変だけど最後までやりましょう。 [40代・女性]

◆以前佐伯市で田中優氏の講演会を聞いたが、田中氏は電力面での脱原発の合理性を説いていました。しかし、今回の藤田さんでの講演では放射線の危険性をただ強調されているだけだったのが少し残念に思えた。もう少し、人体への影響と福島での現状をわかりやすく具体的に説明し、ガレキ受け入れ後に津久見が受ける影響を説明してほしい。 [30代・男性]

◆藤田先生のお話を聞いて、日本の在り方をもう一度考え直すべきだと思います。せめて九州一帯を食の宝庫として守っていくべきだと思います。一次産業が元気になるように [60代・男性]

◆良く理解できました。大変勉強になりました。もっと多くの人に聞いてもらいたい。ガレキではなく人を受け入れることが本当の意味の絆である。ということ力を力のない一人ひとりが真剣に考え、声を上げていくことが絶対に必要だと思います。「7世代先」のことは思いも及びませんが子や孫、ひ孫くらいは笑顔が続きますように力を合わせなければなりませんね。 [40代・女性]

# 被爆医師・肥田幹太郎さんの証言

— あつたは、内部被爆のことを知っていますか? —

医師、肥田幹太郎さんが翻訳された5冊の本があげられ  
その中の1冊『ペトカウ効果』(2009年翻訳)より

1972年にカナダの医師であるペトカウ博士が実験で発見した考えです。「細胞の膜は、高線量ではたかたか破壊され、水の中で非常に弱い放射線を長い間かけると簡単に破壊する」というので、これは「高線量の放射線は危いが、低線量の放射線は危くない」というこれまでの考え方を180度ひっくり返した考え方です(後略)

## 人間と環境への低レベル放射線の脅威

(2011年6月 あけび書房)

### = 命を守る防波堤 =

膨大なガレキを活用して被災した東北地方の海岸に300キロの森の防波堤を  
宮脇昭さん

(横浜国立大名誉教授・植物生態学者)  
○震災がれきを有効利用することにより、運搬などの無駄なコストを省ける。  
○燃やさないので環境面にも良い。  
○がれきと土壌の間に空気層が生まれ、より根が地中に入りがれきを抱く事により木々が安定する。有機性廃棄物は年月をかけ土にかえる。以上は宮脇さんHPより  
“岩手で試験的に造成”政府はがれきを再利用した防潮林の整備を6月より始める方針。

—5/1大分合同新聞より

しんかフェに  
いらっしやい♪

支援  
志願  
被災地支援について考えよう!  
志願者人たちの縁を大切に!  
小情報交換に学び合いましょ!

とき 6/27(水) 19:30

ばは 津久見市民会館 2F

防波堤の  
イメージ

